

平成 24 年 11 月 1 日

各 位

東京都文京区白山五丁目 1 番 3 号

株式会社ビーマップ

代表取締役社長 杉野 文則

(大証JASDAQ: 4316)

問合せ先: 経営管理部長 大谷 英也

(電話 03-5842-5033)

第 2 四半期累計期間の業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

平成 24 年 5 月 11 日に公表した平成 25 年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績予想と実績値との差異につきまして、下記の通りお知らせいたします

記

1. 平成 25 年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成 24 年 4 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日）の業績予想と実績値との差異

(単位: 百万円)

	売上高	経常利益	純利益	1 株当たり 純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	470	△20	△30	△934 円 60 銭
実 績 値 (B)	423	△22	△23	△725 円 26 銭
増 減 額 (B - A)	△47	△2	+7	—
増 減 率 (%)	△10.0%	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 24 年 3 月期第 2 四半期)	340	△77	△78	△2,429 円 98 銭

2. 差異の理由

平成25年3月期第2四半期累計期間（以下、「中間期」）の業績は、中間期に予定していた一部案件の規模縮小や延伸により売上高が予定を下回りましたが、経費削減等により経常損失、純損失への影響を最小限に留めました。また、当初見積っていた特別損失の計上を見送ったため、純損失額が予想を下回りました。

なお、現時点での受注状況等を勘案し、平成25年3月期通期の業績予想につきましては変更ありません。

事業分野別の状況は以下のとおりであります。

① クロスメディア事業分野

無線LAN関連において、通信事業者からの積極的な設備投資意欲を受けて、当社の受注環境にも反映されました。急拡大する受注環境に対応すべく体制の強化を行っておりますが、一部案件の収益が悪化し、当初予定していた売上高・利益には届きませんでした。TVメタデータ関連におきましては、引き続き利益率向上に取り組んでおります。

当事業分野の今期売上高は、600～800百万円（中間期実績241百万円）を見込んでおります。

② ナビゲーション事業分野

鉄道関連において、スマートフォンの普及による事業環境の変化へ対応を進めているものの、一部案件の規模縮小により当初予定より売上高・利益が低下いたしました。当事業分野においても、無線LANに関わる領域の案件の引き合いをいただいております。今後対応強化に取り組んでまいります。道路関連においては、前期から無線LANへのシフトを推進しており、重要な進捗はありません。

当事業分野の今期売上高は、200～250百万円（中間期実績95百万円）を見込んでおります。

③ モニタリング事業分野

大手飲食店チェーン向けの出荷が当初予定を下回りましたが、前期に引き続き、駐車場、環境インフラ事業者、コンビニエンスストア等へのASP提供の実績作りに取り組んでおります。

当事業分野の今期売上高は、170～240百万円（中間期実績86百万円）を見込んでおります。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいております。

以 上